

杉並第六小学校改築の検討状況について

改築時期を迎えている杉並第六小学校について、狭小な敷地条件であることなどから、令和8年度から予定している設計に先立ち、現地改築の可能性について今年度行った検討結果について報告します。

1 背景・経過

杉並第六小学校は、最も古い校舎が築62年となり改築時期を迎えていることから、令和5年度に改定した杉並区実行計画及び杉並区区立施設マネジメント計画において、令和7年度に改築を検討、令和8年度から改築設計に着手することとなっている。

令和7年度の検討では、同校の敷地面積が7,174㎡と区立学校で4番目に狭いこと、また、近年同規模の敷地内で仮設校舎を建て学校運営をしながら現地改築をした事例がないことなどを踏まえて、外部委託事業者を活用し現地改築の可能性について検証を行った。

2 検証結果の概要

(1) 検証に当たっての主な想定条件

- 新校舎は普通教室13教室規模とする
- その他の諸室は杉並区立学校施設整備計画の標準建物面積とする
- 学童クラブ(約330㎡)を併設する

(2) 想定される校舎配置

- 南北に長い敷地のため、主な校舎配置は北校舎案・南校舎案が考えられる。
- 新校舎を北側に配置する場合、新校舎は日影規制等のため高さを抑える必要があり建築面積が大きくなるため、敷地北側にある現校舎・体育館を代替する仮設校舎等の建設用地の確保が困難となる。
- 新校舎を南側に配置する場合は新校舎及び仮設校舎は敷地内に納まるものの、敷地面積や周辺道路の幅員、敷地との高低差等を踏まえると、工事ヤード及び工事車両動線の確保が困難となり、工事の実施に当たり課題が大きいことが分かった。

3 今後について

上記検証結果を踏まえて、今年度、杉並区実行計画及び杉並区区立施設マネジメント計画を一部修正し、令和8年度も引き続き検討する。